

会 報

代表世話人 土屋 宏
〒181-0015
三鷹市大沢 2-4-7
Tel/FAX 0422-31-5583拡大教科書関連の
研究プロジェクトについて

代表世話人 土屋 宏

近年 拡大教科書に関する種々の研究プロジェクトが立ち上がり、弱視児童生徒の教材についての実情が明確になり、その改善が進められることは誠に喜ばしいことであると思っております。文部科学省が支援教育に真剣に取り組んでいる現れと受け止められます。

本年も協議会としては、二つのプロジェクトが開始していることを理解しています。

一つは「教科書デジタルデータ提供のための拡大教科書の製作ためにボランティアグループが提供を受けているデジタルデータについて、各ボランティアから不満が出ていることは周知の通りですが、その改善を目指す研究がこのプロジェクトです。対応の範囲は義務教育から高校段階に広げられ、デジタルデータの提供についての管理をシステム化し、オンライン等での手続を可能にすることや現在提供されているPDFデータからテキストデータ提供への体制づくりを推進しようとするものです。その中にはボランティア等が既に所有しているテキストデータの集約と再活用の方法も検討される予定です。

デジタルデータの管理運営システムは年内にもプロトタイプテスト運用が開始されようとしております。ボランティアグループからのテ

トについては会員各位に依頼されるケースもありますので、ご協力をお願いします。

二つ目は「弱視児童生徒のニーズを拡大教科書作成者への確に伝達されるための支援システムの調査研究」です。

拡大教科書の利用者からはなかなか的確なニーズを受け取ることが困難な現状があります。

ニーズの把握手法が確立されていない、ニーズの伝達ルートや方法が確立されていない、などの課題があつて利用者や作成者の間に連携関係が生じないのが実情と思います。勿論 拡大教科書の情報が利用者側に伝わっていないことも大きな一因になっております。完全なプライベートサービスが全盛の時代は、ひとりひとりのニーズを直接聞きながら作成したので、現在よりもまだニーズの把握は良かったように思います。拡大教科書の無償給与が実現したことで事務職の方の手配手続に替わり、利用者ニーズの把握は遠くなつてしまいました。

この研究プロジェクトは、利用者が示すべきニーズの項目を規定し、それらの内容が成作者に正確に伝達されことを支援する環境整備の提案をするものと理解しております。ニーズ項目の一つには拡大教科書に適した文字フォントが無い課題も含まれると思えます。

ボランティアが目指すプライベートサービスを丁寧に実現するためには、このプロジェクトの提案が大きな後押しになることは間違いなく、期待して良いと思います。



世話人会を離れて、今思うこと…

拡大写本グループ「つばき」 土屋 暢子

今年五月の代表者会議をもって、世話人を退任することになりました。私が、三田の福祉会館に通うようになって、丸八年。その間には、拡大教科書の無償配布、文科省との契約、デジタルデータの提供、出版社による拡大教科書出版などなど、活動の内容が目まぐるしく変化してゆきました。最初は、何をどうしていいのか分らないまま、先輩世話人の方々に初歩的な事から教えて頂きました。又、その間、ずっと会報の発行を担当させて頂き、各地の会員の方からの原稿を読んだり、色々な話し合い、会議などの中で意見を聞かせてもらったりしました。たくさんの方との交流は、私にとって何物にも換え難い宝物となりました。

その中で思ったことは、やはりお互いの連携がとても大切だということでした。自分の所属しているグループ内の連携はもちろんですが、他のグループとの連携、関連する機関との連携もとても大切だと思うのです。自分たちのグループの中だけで考えていたり、悩んでいたりと解決のつかない事でも、他の立場の人、他のグループの人に話してみると、思いもつかない方法で簡単に問題解決できたり、別の面からの見方を示して頂いたりして、本当に「目から鱗」でした。それも、拡大写本の技術的な方法だけでなく、グループ運営の問題であったり、またある時は、文科省や教育委員会との対応についてであったり、パソコンの操作方法であったりと多岐に渡りました。

しかし、全国拡大教材製作協議会という大きな組織の中では、なかなか日々の細かい問題について話し合ったり、意見を聞いたりすることは難しいと思います。それよりもっと近くの、例えば同じ県内のグループ、近隣のグループどうしが交流し、情報交換したり、協力しあったりすることが出来たら、もっと活動に幅が出てくるのではないのでしょうか。たまたま私は、神奈川県という

地域の中で活動しています。神奈川県ではもう十年以上前から、県内のグループがお互いに情報を交換し、協力する体制ができていたのでとても恵まれていると思います。他にも、関西地区や九州などでも少しずつ、そういった形が出来つつあるように聞いています。一年や二年で体制がきちんと整えられるとは思いませんし、地域性、或いはグループの分布などいろいろ問題があるとは思いますが。しかし、全国規模の大きな問題（例えば、著作権やデジタルデータなど）がある程度解決され、今後何が問題となつてゆくかと考えた時、今まで以上にきめ細かい利用者への対応が大切になってくると思われるのです。「井の中の蛙」ではなく、周囲のグループとの連携を深め、自らの技術を磨き、よりよい写本製作に向けて日々努力してゆく事が、結果として「使いやすい拡大本」を提供することができ、利用者に還元できるのではないのでしょうか。

全国拡大教材製作協議会の活動も、十年を過ぎ、新しい使命と形を模索する時期に入ったのではないかと思います。ここで私も、一度自分をリセットし、一人の拡大写本者として原点に戻って、もう一度色々な事を考えなおし、これからの活動に生かしてゆきたいと思っていると同時に、全国拡大教材製作協議会もより身近で充実したネットワーク作りを進めてほしいと願っています。地域ごとの纏まりが出来、それぞれから代表が集まって中央の世話人会が組織されると、今以上に細かな問題の把握が出来るように思います。そうなれば、お互いの活動内容ももっと身近に知ることが出来ますし、ボランティア全体の質の向上にもつながるのではないのでしょうか。

会員の皆さんは、そんな考え方をどう思いますか？

この度協議会に加入するに当たって

拡大写本グループはなみずき 山中 眞理子

私共グループは、兵庫県神戸を拠点に活動しております。まだ阪神間に震災の爪痕が残る13年前、同じ兵庫県で活動しておられた「小林聖心女子学院 たんぼぼ会」の方々のご指導を受け発足しました。

この13年間、メンバー数が少なかったこともあって「たんぼぼ会」の括りで活動させていただいておりましたが、3年前より新たに講座を受けた方が加わり、又小学校の教科書が全面的に改訂されるのを機に独立することと成り、協議会に加入いたしました。今のメンバーは男性一人を含む20名でその殆んどが子育てを終えた主婦で構成されています。そこでパソコンをフル活用して教科書作成という訳にはいきませんが、唯一の男性メンバーからパソコンの指導を受けながら、技術向上に前向きに取り組んでおります。

当面の課題としては、おそらく他のボランティアグループも同様かと思いますが、自分たちの作成した拡大教科書が果たして利用者のニーズに充分応えられているかどうかという事です。百人百様の要望にすべて応えるという事は不可能ではありませんが近づける努力はしたいと思っております。

5月に開催された「拡大写本のつどい in 名古屋」では私を含む3名で参加させていただき、それぞれ何らかの収穫を得る事ができました。

ボランティアが作った拡大教科書を利用して成人された方々のボランティアに対する感謝の気持ちは、作り手としてこの上ない喜びであり、今後の励みでもありました。ただこういった利用者の生の声を制作と同時進行で聞くことができたらもっと充実した活動になるのではと感じたりもしました。

又、他のグループが作成された教科書を見せていただくことは、

今後の製作にたいへん参考になりますし、自分たちの問題点も見えて参ります。

日々、試行錯誤しながら、利用者のお子さんと共に自分たちも成長してゆくこの貴重な時間を今後も大事にしながら活動したいと思っております。

活動方法を模索しつつ・・・

大宮拡大写本の会「銀のしずく」 稲葉 菊子

「銀のしずく」は、平成二年に旧大宮市の社会福祉協議会が主催した拡大写本講習会に参加した方々によって、平成三年四月にボランティアグループとして発足しました。

その当時は、絵本・児童図書・バスの時刻表・料理レシピ・カラオケの歌詞など、個人からの依頼で作製していましたが視覚障害のお子さんがいらっしやる会員の方の要望で、手書きの教科書を作ったのが拡大教科書を作るきっかけとなりました。

十年程前に入会した私は、実は拡大写本はもちろん拡大教科書というものを知りませんでした。先輩方から文字の書き方などを教えていただき、小学校一年生の国語を作った時は、大きな文字・カラーのかわいいいさし絵で作るのはとても楽しい作業でした。

その後教育委員会に見本を届けて、拡大教科書を知ってもらった働きかけも試みました。

私達の会への依頼は遠い他県からのものが多く、教科書を使う子ども達や先生方から直接感想を聞くことができず、私達の作る教科書で本当に使いやすいのだろうか、改善するところはないだろうかと案じながら作り続けています。

拡大教科書、教材製作に携わる方々の努力の末、最近出版社による拡大教科書が提供されるようになり、ボランティアグループ

への教科書の依頼が少なくなってきました。そのことは、大きな進歩だとは思いますが、拡大教科書を必要とするお子さんは一人条件が違うように思います。出版社からの教科書も是非、できるだけ個々のお子さんの条件に合ったものを製作していただくよう希望しています。

教科書の依頼が少なくなり、「銀のしずく」では発足当初の目的にもどり、課題図書や推薦図書など（著作権等の問題を考慮しながら）の拡大写本を作り、教科書を届けていた学校にプレゼントしてみたいという話し合いをしています。

又、教科書を作っていたため、お断りしてしまっていた方々からの依頼を再びお受けすることができるのではないかと考えています。

パソコンにしても手書きにしても、腕が落ちないようにしなければ：：と思いつつ活動しています。

選択肢の一つとしての『拡大教科書見本』作成の取り組み

四街道拡大写本の会 北嶋 千尋

バリアフリー法の施行により、教科書出版会社から発行される拡大教科書がポイント数や教科をさらに増やし、普及しつつあるようです。そのため来年度の当会への依頼も十月初め現在、今年度に比べ約6割程度となっております。

今まで、なんとか拡大本が欲しいとの依頼を受けながら手一杯の現状で、他をご紹介したり、お断りせざるを得ない場合もあり、心苦しいこともしばしばでしたが、教科書出版会社の拡大本がより充実していくことで、今まで使いたくても使えなかった子供さんたちも恩恵に浴することが出来るようになり、拡大本に携わる者として喜ばしく感じる一方、教科書出版会社の拡大本は標準規

格発行ということでポイント重視であり、様々な障害により見え方は一人一人異なると言われる子供たちのすべてをカバーできにくいと考えられます。たとえば字間、行間、色の見え方、線の太さ・形状等々、いわゆる標準規格外発行といわれるボランティアの能力が時間的余裕のできたことで今まで以上に発揮できるのではないかと思えます。

ところが、こういったボランティア団体が作成するきめ細やかな拡大本のあることがあまり知られていないといった実情があります。

そこで、「四街道拡大写本の会」が今まで作成した、利用者が見やすい拡大教科書を知っていたため、『拡大教科書見本』を作成いたしました。

英・数・理・社・国の主要5教科について、22・26・30・40ポイント、ゴシック体・教科書体等で編集し、その中から一部をピックアップし、32ページにまとめて一冊に製本しました。

まず、地域の教育委員会等の方々に、実際に見ていただいて、選択肢の一つに加えていただくことが目的です。

今まで会が培ってきたノウハウをより子供たちが勉強しやすくなるように役立てていきたいと思っております。

余談になりますが、先日、数年前に私たちの会が作成した拡大本で中学の3年間を勉強した生徒さんのお母様から、高校生の今、学校生活を楽しく元気に過ごされているとのお手紙をいただきました。使用中のご本人、親御さん等からのお礼のお手紙はもちろん様々なご指摘は、励みになったり、よりよい拡大本作りへの参考になります。こういったその後のご様子を知らせていただくことも感激いたします。

これからも様々な障害を持った子供たちの役に立てるよう勉強し続けたいと考えております。

四街道拡大写本の会HP <http://www.ne.jp/asahi/yks/y/>

「あじさい」の活動について

東京女子大学同窓会奉仕グループ「あじさい」

秋元 曉美

東京女子大学同窓会奉仕グループ「あじさい」は、拡大教材製作協議会の一員ではありますが、さまざまな理由により教科書は扱っておりません。でも、弱視の児童生徒の皆さんが楽しく読める童話、絵本、漫画、図鑑などを手書きで拡大写本し、自分で製本し、視覚支援学校に送り続けて、今年で28年になります。本の総数は延べ1500冊を越えました。

最初の頃は何をするのも大変で試行錯誤の連続でしたが、「拡大の集い」に参加して、展示してあった簡易製本機を真似して自分達なりに作り、工夫と話し合いを積み重ねて、今では大変きれいに製本できるようになり、他のグループの活動を知った事で得た事も多かったのです。協議会に入れていただいていたと感謝しております。手作りの製本機ももう7台になりました。

活動の内容は月に2回、女子大の同窓会館で例会を持ち、次に拡大する本について企画、原本分け、読み合わせ・校正後の製本作業、などをしていきます。同窓会館にいつも使用できる部屋があり、本棚もありますので、原本はそこに整理できますし、製本機や紙、文房具、資料などを棚に置いて帰ることができますので、大変恵まれた環境での活動とも言えると思います。

以前は挿絵も手書きで写していたのですが最近著作権の問題もありカラーコピーを使用する事が多くなっています。著作権が取りにくいというお話を伺ったことがあります。私達は専用の許諾書付の用紙を作り、事前に出版者の担当の方にお話ししてからファックスをお送りする・・・という形で進めていて（一部の外国の方の作を除いて）ほとんどが気持ちよく許諾して下さいます。

以前、ある出版社の方から、こういう目的ならいちいち著作権

を取らなくても良いといわれた事があるのですが、本当にそうなのかはつきり分からないので今も一応とっております。この問題について明確なお答えがありましたら教えていただけませんでしょうか。

最近では本を納める所も、筑波大付属・都立八王子・宮崎県立明星・各視覚支援学校、足立区立五反野小弱視教室、杉並区立中央図書館など5箇所が増え、著作権をスムーズに許諾していただく為にすべて無償寄贈しています。でも逆にそれは大変にお金のかかるという事でもあり、母体である奉仕グループからの活動資金だけでは足りないほどです。ここ数年キリン福祉財団、太陽生命厚生財団などから助成金を頂くことができ大変助けになっています。

先日参加した、本を納めている弱視学級の懇談会で、お母様から、漫画が導入部だったそうですが、お子さんがとても喜んで本を読むようになったとうかがいました。また先生からも私達の拡大本を授業に使っているとのこと。年度末には各盲学校の生徒さんからの沢山の感謝とリクエストのお手紙を頂きますが、そういう実際に役に立っているというお話が一番うれしく、又活動の励みにもなります。

国際読書年の今年、弱視のお子さんにも、本屋さんで人気のあの名作も拡大したい、〇〇君からのリクエストの本も早くしなくてはと、拡大したい本のリストは広がるばかり。手書きの温かさが感じられる良い本をこれからも¹⁵人のメンバー皆で力を合わせ、製作していきたいと思っております。



中学校拡大教科書実績調査結果

9月にアンケートを65グループに発送いたしました。
各グループの皆様には実績調査にご協力いただきありがとうございました。
調査結果は下記のとおりです。

回答 あり 40 (61.5%) ・ 中学校教科書作製 あり 26
なし 14
なし 25 (38.5%)

* 作製教科書数—365 (一つの教科書について複数のPtで発行しても教科書数=1とする)

* 教科内容

国語 (含 書写)	72 (20%)	数学	61 (17%)
理科 (含 1類・2類)	69 (19%)	英語	58 (16%)
社会 (含 地理・歴史・公民)	68 (18%)	その他	37 (10%)
	合計		365 (100%)

「高校教科書作製実績調査」も引き続き行うことになりました。
同封の別紙にて回答のご協力をお願いいたします。今回は実績のあるグループだけ、調査表にご記入の上送付ください。よろしくをお願いいたします。

現在のグループ数

65グループ

世話人会の役割分担

代表・・・土屋宏(みたか拡大写本グループ)
代表代理・・・佐藤邦隆
会計(会費)・・・津布久順子(安拡大写本グループ一ペ)
会報・・・相川福江(神奈川県視覚障害援助
赤十字奉仕団拡大写本部)
会報・・・猪狩美知子(下丸子図書館拡大写本研究会)
製作実績調査・・・傍島純子(柏市拡大写本サークル)
一般業務・・・後藤裕子(宮代会拡大写本グループ)
一般業務・・・北嶋千尋(四街道拡大写本の会)
監査・支援・・・能宗絹子(拡大写本のひろば)

《編集後記》

各グループでは23年度教科書の製作準備を始めていることですが、教科書・デジタルデータの提供が待たれますね。
今回お寄せいただいた原稿から見えてくるそれぞれのグループの工夫や努力。皆様のグループでもきっと様々な取り組みをされていると思います。連携をしい知恵を出し合っていきたいと思っております。

どうぞ皆様のグループの近況報告をお寄せ下さい。

(一)

二十一年度世話人会日程

原則として隔月第4水曜日 午後一時半
(どなたでもお気軽にご参加下さい)

場所 東京都障害者福祉会館
東京都港区芝 5・18・2
交通 JR 田町駅下車 徒歩3分
都営地下鉄三田線・浅草線
三田駅下車すぐ

11月24日 (水)
1月26日 (水)
3月23日 (水)